

第13回 視覚障害乳幼児研究大会

主催 視覚障害乳幼児研究会
社会福祉法人 京都ライトハウス
期日 1991年 8月24日(土)
会場 社会福祉法人 京都ライトハウス

第13回 視覚障害乳幼児研究大会

1. 期 日 1991年8月24日(土) 午前10:00～午後4:00
2. 会 場 社会福祉法人 京都ライトハウス 2階ホール
3. 参加費用 一般 2,000円
会員 1,500円
4. 日 程 9:30～10:00 受 付
10:00～10:15 開会式
10:15～11:45 講 演
「視覚障害児と共に」
—あたりまえの保育をめざして—
講師：たかつかさ保育園 園長 藤井 修
11:45～12:30 研究発表・質疑応答
12:30～13:30 昼食(総会)
13:30～15:20 研究発表・質疑応答
15:20～15:55 全体討議
15:55～16:00 閉会式
5. 研究発表内容
 - ① 幼稚園、保育園、通園施設における視覚障害児の保育について
園部 光子・高木初美(愛知県心身障害者コロニー中央病院)
 - ② 幼稚園、保育園に在園している視覚障害幼児に対する
“おえかき”の指導について
対馬 貞夫(神戸市立心身障害福祉センター)
 - ③ American Printing House for the Blind を訪問して
山本 利和(羽衣学園短期大学)
 - ④ 視覚障害児の独歩予測に関する精度の検討
岡田 節子・香川 すみ子・中嶋 和夫
(東京都心身障害者福祉センター)
 - ⑤ 神奈川県ライトセンターでの両親への情報提供について
宮内 淳子(神奈川県ライトセンター)
 - ⑥ 視覚障害乳幼児の視力の推定方法について
香川 すみ子・岡田 節子・中嶋 和夫
(東京都心身障害者福祉センター)
 - ⑦ 弱視幼児に対する形体認知指導について
—動作と表情の認知絵カードの作成—
米田 博・諸藤 圭子(福岡市立心身障害福祉センター)

視覚障害児と共に

—あたりまえの保育をめざして—

たかつかさ保育園 園長 藤井 修

1. 一人ひとりを大切に、「元気で、落ち着いた」こどもを。
集団で生活する値打ちを、みんなで追求してきた園づくり。
障害を持つ子どもの存在が、この目標をより厳しく意識させられました。
2. 恵里さん(1981.6.8生まれ)の5年間。入園1歳10カ月。
「見えないこと」だけが問題でした。
何にでも挑戦する意欲。
縄とび、クミちゃんのように跳びたい。
竹馬、サナエちゃんのようにのりたい。
「エリ、保育園いくのイヤヤ。」4歳。
どの子もクラスのなかで存在感を得ているのだろうか。
3. 慎也くん(1985.3.14生まれ)の3年間。入園3歳。
「見えづらいこと」で生じる問題がより問題でした。
「シンヤ、シンヤっていうな！」
夏合宿は、「おフロにいくんや」騒動。
跳び箱、リレーにがんばった運動会后、「お化けの縁日」の
ピラピラが消えた。
憧れのケンゴくんと、ロバの役を演じる。
愛宕山登りは、日をずらそう。
4. 家族の信頼と保育者のがんばり、それらを支えたあいあい
教室。

幼稚園、保育園、通園施設における視覚障害児の保育について

愛知県心身障害者コロニー中央病院
園部光子・高木初美

1、目的と方法

愛知県コロニー中央病院視覚障害訓練室では、主として個別に子供と関わり、子供の状況を把握しながら、自信をもって家庭や地域の中で子育てができるよう親へのアドバイスをしている。その子供たちの多くは、地域の幼稚園、保育園、通園施設（以下、まとめて園とする。）に通っている。園での子供の状況については親から話を聞いて知り、園の先生の困っている点も親を通じて私たちの耳に入り、また親に返していくという形をとっている。それは、園訪問や宅訪が病院業務のひとつにはなっていないためであり、そのため園の先生と私たちの間は必ずしも関係がとれているとはいえない。中には訓練室に来られる先生があったり、県が行なっている巡回療育指導に私たちが参加し通園施設には行く機会があるのだが、その回数は全体の中ではごくわずかである。（図1）

今回私たちは、視覚障害児を受け入れている園のうち11園を訪問し、1日見学を行ない子供がどこで困っていたか、またその時の先生や他児の対応の仕方について見た。どこで困っていたかについては、移動、食事、排泄、課題の時間、自由時間での場面に分けて考えてみた。

また、視覚障害児が生活しやすいように配慮していた点を見、そして先生から話を聞いた。

訪問した園は私たちが巡回療育指導で訪問したことのない園を選んだ。全て初めて視覚障害児を受け入れた園である。

対象児は14人であり、視覚障害のみでなく知恵遅れもともなった子供もいる。ここでは紙面上、幼稚園と保育園での状況のみを報告する。その園と子供の概況は表1のとおりである。

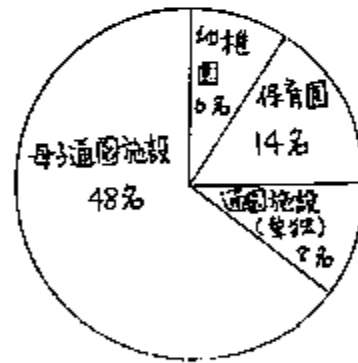


図1 当訓練児の通園先 (76名)

表1 見学した園と子供の概況

園の形態	先生の数	子供の年齢	在園年数	病名	視力の程度	知恵遅れ
1 幼稚園	1クラスに1名	3歳児(年少)	1年目	先天性白内障、角膜炎	A	無
2 幼稚園	1名	4歳児(年中)	2年目	弱視眼疾、黄斑形成	A	無
3 保育園	1名	3歳児(年少)	1年目	先天性白内障	B	無
4 保育園	1名	4歳児(年中)	1年目	小眼球、下方向視	A	有
5 保育園	1名	4歳児(年中)	2年目	先天性眼疾	I	有
6 保育園	2名(本見1名)	5歳児(年長)	1年目	弱視色素変性症	I	有

※視力の程度 A:1目を使わない B:少し見えるが手探りもする C:1目を使って生活できる

2、結果

(1) 子供たちが困っていた点

●移動の中で

- ・園庭を1列に並んで歩くとき、ついて行くべき子供を見失う
- ・全体行動のとき、動きがとりにくくなる
- ・いすをもって他の教室に移動することができない

●食事の中で

- ・食が進まず、自分から食べようとしない
- ・マーガリンの小袋の口があげられない

(2) 対処の仕方

- ・うしろの子供が行く方向に本児の体を向ける
- ・他児が手をつなぐ
- ・先生が本児のいすをもっていく
- ・先生が本児の隣にきて食べさせるようにする
- ・先生が切り口を大きくする

●排泄の中で

- ・1人で行けるが、水で遊んでしまってもどってこないことがある
- ・用を足した後、便器に座ったままにいる

●課題の中で

- ・空き箱を組み立て形を作る事
- ・手作りの凧に絵を描くこと
- ・ペープサートの劇のとき、他児と同じように動けない
- ・紙芝居
- ・全体会の時、離席してしまう
- ・ズボンの足を入れるところが難しく苦勞する
- ・たくさんのカバンの中から自分のカバンを捜せない

●自由時間の中で

- ・特になし

(3) 配慮していた点

- ・タオルかけ、ロッカー、くつばこ、椅子の背にシールや鈴をつける。または、わかりやすい場所(いちばん端など)に決めてある。
- ・体操を教えるとき、視覚障害児を見本にして先生が手をとって教え他の子供たちにも見せるといった方法をとる。

(4) 先生の話

- ・問題を感じたことはない。できることはひとりでやらせ、できないことは教えればいい。
- ・特別なことはできないが、その子なりに楽しんでやっていけたらいい

- ・先生が様子を見にいき連れ戻す

- ・先生が一声かけるとでてくることができる

- ・ほとんど先生が作る
- ・先生が隣に座って、本児が描くのを見守る
- ・先生が連れて移動させる

- ・自分から一番前に座る
- ・先生が本児に一番前に来るように言う

- ・先生が声かけして座るように促す

- ・先生が手伝う

- ・先生が捜す

と知っている。

- ・保育園で皆と同じ事をしていていいのだろうか。専門的な指導が必要ではないか。
- ・平均台の上やでこぼこ道は手をつながないとこわがる。
- ・頭打ちをするのがいちばん気になったが、だんだん頭打ちしそうな時がわかるようになりその時に抱いてあげるようにしてきた。今はほとんどしなくなった。
- ・遊戯についていけないことがあり、気分によってやろうとしない事がある。
- ・その子が園にいることによって他児に思いやりが育ち、とてもいい。

3. 考察

私たちは園に対してどのような援助ができるだろうか。

全盲で知恵遅れの子供の先生が「問題を感じたことはない。できることはやらせてできないことは教えていけばいい」と述べる一方、低視力で知恵遅れのない子供の先生が、「保育園で皆と同じ事をしていていいのだろうか」と不安を述べた。このように、視覚障害児の園での受けとめ方、園での目標は園の先生によってさまざまであり、子供の視覚障害の程度や知恵遅れの程度とも無関係であった。

特に障害児を受け持ち強い不安をもっている先生に対しては、家庭だけでなく園という集団の中に参加すること自体が、子供にとって生活の場を広げていくことになりとても大切なことだということを、伝えていくことが必要だと思われた。

また、ある通園施設の先生は、「視覚障害児一般のことについて知りたい」と述べていたがその裏には、子供の行動が理解できないという気持ちが含まれていると思われ、子供の行動について話し合う必要があると感じた。私たちは園を訪問することがなかなかできないのであるが、園の先生が負担を感じず気楽にして保育ができるようになるには、親を通じての働きかけだけでは不十分であり、園の先生と直接話し合いをすることが必要である事がわかった。

幼稚園、保育園に在園している視覚障害幼児に対する“おえかき”の指導について

神戸市立心身障害福祉センター 対馬貞夫

視覚に障害をもっている幼児が、一般の幼稚園、保育園などに通園するケースが、多くなってきました。そこで、これらの幼児を受け入れるために、どの園でも努力がはらわれていますが、この度、視覚障害児、殊に全盲児、準盲児をまじえた、“おえかき”の保育についていろいろな方法を考えてみたいと思います。

1. 網をはった板の上に紙をおいて、絵を描く。

この方法は割合に簡単にできますので、これを行なっている園も多いと思います。果物などが入っているビニールの網袋を利用することです。まず、この袋を切って、画用紙大の板に、ボンドなどで、ぴったりと張り付けます。その上に薄手の画用紙をのせて、硬い目のクレヨンで描かせますと、描いた絵がうき上がって、手で触って知ることができます。クレパスではやわらかく触ったとき、手に色がつきますのでよくありません。その他、ビニールの網の代わりに防虫用の金網なども利用できます。一番粗いサンドペーパーの上に、画用紙をおいて描いても、同じような効果が得られます。戸外のコンクリートの上に紙をのせて描いてもよろしい。

2. レーズライター

盲人用具として市販されており、すでに多くの盲学校や園で利用されておりますので多く申しませんが、レーズライターで絵を描く場合、幼児にボールペンなどを手で持ってかく方法を教えておくことが必要です。絵の場合は大きい目のラバーを用いた方が自由に描けます。全盲児の通園している園では、是非購入していただきたいものです。

3. 筆を使って描く絵（立体えのぐ使用）

最近、手芸用の立体えのぐやインクが、各種市販されています。少し大きい文具店や手芸店に売っていますので、筆につけて絵を描いて下さい。描いたあと、アイロンなどで熱処理をするものや、立体カラーなどで水に弱いものもありますので、ラッカー処理をして固めておく必要があります。これは紙だけでなく、布に描くことができます。

4. ヌードルペインティング

よく園で、夏になると小麦粉とえのぐを混ぜて、手や足で絵を描かせています。視覚障害児も正眼児といっしょに遊べる楽しい絵画製作です。

5. ぬり絵のさせ方

まず下絵を予め描いておき、その絵の線の上に、即乾性のセメダインか、立体えのぐ、または、糸を接着剤ではりつけて、輪郭をつけておきます。紙の下には前述の網板を入れて、クレヨンでこすらせると自分で描いたものが解ります。下の網板の種類を変えておきますと、色と触の両方が楽しめます。

6. 磁石板か、白板、黒板に絵を描く方法

まず、紐状になった磁石で、輪郭を作り、その中に、丸や細長い板の磁石板で顔などを描くことができます。お菓子のカンの蓋などに自分の顔などを描いてくっつけると興味をひきます。

7. ねんど板を作って、絵を描く

ねんどを手でたたいて板状に作り、そこに手型や足型や自分の顔を描いたりします。釘や尖った棒などで描いてみましょう。

8. コルク板に、小さい板切れを打ち付けて絵を描く

まず、画用紙大のコルク板を用意します。しゃれた台所用具として市販されています。このコルク板の上に、真ん中に小さな釘穴を開けた板切れをのせていろいろな絵を描きます。横は、4cm大の大きさと、縦は3cmぐらいのもので△や□や○などを作って、それに小さい釘を打つ穴をあけておきます。ドイツのおもちゃとして市販されています。

9. 穴あき板を使って、図形を作る。

台所などの、調理道具をかける穴あき板を利用します。この板を画用紙よりも大きく切って、そこに、ペグをさしこんで絵を描きます。ペグの頭が丸いもの、四角いものなど市販されていますのでこれで絵を描いて下さい。幼稚園教材のコマはめ道具で、紐かけなどして図形を作ることもできます。盲人用の碁盤なども利用できます。

10. 板に線や図形の輪郭を中抜きにして、その溝にそって描く

中抜きの線にそって、鉛筆をさしこんで描きます。この下にレーズライターを入れておくと、うき出しの図が出来上がります。○、△などを教えるのにはよい教材となります。

視覚障害児の独歩予測に関する精度の検討

東京都心身障害者福祉センター

岡田節子 香川すみ子 中嶋和夫

1 1. パンチで穴をあけさせて、模様を作る

少し硬い紙に一つあなあけパンチや鳩目を使って、自由に穴を開けさせます。二つ穴のパンチでも、パチパチやっけて穴を開けさせると喜びます。図形を作らせる場合は、予め紙の上に糸を張りつけ、形をこしらえておき、その上をパンチで穴を開けさせる方法もあります。

また、洋裁用のルレットで線を書くこともできます。また図形の上をホッチキスで、ホッチキス針を打ちつけて、図を作ることもできます。

1 2. 点字板を使つての作図

盲学校にいる児童などが、興味をもって点字板を使つて模様をつくり、遊んでいます。考えると、いく種類もの模様ができますので、これは視覚障害児にとって楽しい遊びになります。

1 3. 砂絵

予め、ボンドを画用紙の上に塗っておき、画用紙を漏斗状にして、その中に砂を入れて、その細い穴から砂をまいて、絵を描きます。幼稚園教材としての色砂を売っていますので、目の粗密の異つたこし器を使って砂を分けてまいていくこともできます。

1 4. 切り絵あそび

色々な種類の色紙や広告紙、布切れ、視覚障害児に対しては、サンドペーパーなどを切つて、はりつけさせます。幼稚園の低年齢のお遊びとして楽しめます。

1 5. 図形を切つて、その輪郭にそつて穴をあけ紐通しをする

多少厚い紙に図形や顔などをかいて、それを切りぬき、その周囲にパンチで穴をあけていきます。穴があいたら、順々に紐を通していきますと輪郭がはつきりします。紐通しの練習にもなります。これも「ホビー」という商品名で、市販されています。

以上のようにいろいろな方法があります。この他いろいろと知恵をしぼつて楽しい“おえかき”をいたしましょう。

1. 目的

運動障害の有無に関わらず、独歩の予測に関する相談は決して少なくはない。このようなことから、東京都心身障害者福祉センターにおいては障害児の独歩に関する予測方法を開発し養育者から相談のあつたケースにその方法を適用し経過を観察してきた。今回は、すでに独歩の予測を行つたケースの中から視覚障害児を抽出しその結果について整理したので報告する。

2. 方法

対象は養育者の相談に基づき独歩の可能性およびその獲得時期について予測を行つた視覚障害児16名である。これら対象の眼疾、視力、独歩予測時点の状態及びその結果に関してなどは〔表1〕に示した通りである。この16名は独歩可能と予測されたものと(8名)、独歩不能と予測されたものに分類されるが(8名)、今回はこの中から歩く可能性があると予測しかつその獲得時期がすでに過ぎている症例6名を抽出し、その独歩状況について分析した。

なお、我々が開発した独歩獲得の可能性とその獲得時期の予測方法は〔図1〕に示した通りである。

a. 結果と考察

1) 独歩の可能性について

独歩の可能性があるとされかつその獲得時期が過ぎている6名は全例とも独歩を獲得していた。

神奈川県ライトセンターでの両親への情報提供について

神奈川県ライトセンター
宮内 淳子

1. はじめに

視覚障害乳幼児の就学前指導に関わる機関の役割として、(1) 早期発見、(2) 家庭教育に関する援助、(3) 保育機関に対する専門的援助、(4) 乳幼児に対する直接指導などがあげられる。

従来、通学してくる子どもに対する指導を中心に行ってきた盲学校も、最近では多様化するニーズに対し、さまざまな指導形態を取るようになってきており、神奈川県内の3つの盲学校幼稚園でも、それぞれ特色のある指導が展開されている。

現在ライトセンターでは、これらの盲学校と連携を取りながらサービスを行っているが、ここでは、両親への情報提供に関することを中心に報告し、今後県内での地域センターとしての役割を考えていく手がかかりとしたい。

2. 神奈川県内の盲学校幼稚園の指導体制

	学籍	教育相談	特 色
横浜市立盲学校	3歳～	・0～2歳 ・3歳～ (普通園 在籍児) 通所指導	・普通園への訪問指導 ・重度児に対する訪問指導
県立平塚盲学校		・普通園との交流保育(週1回) ・訓練会等への訪問指導	
私立横浜訓盲学院		・0～2歳 訪問指導	・幼・小一貫指導 ・グループ別指導 (弱視・肢体不自由等)

3. ライトセンターの幼児指導の体制

(1) スタッフ

*職員2名

*嘱託指導員4名

(資格所有者…保母・幼稚園教諭・養護教諭等)

(2) 現在行っているサービス全般

①早期発見・指導のために	②対家庭(両親)	③対関係機関	④対乳幼児(直接指導)
*病院・保健所等への事業案内の送付	a 養育相談 b 訪問指導 c 通所指導 d 両親教室 e 通信の発行 f 点字教室 g 絵本講習会 h 学校見学	*普通園・療育センター・保健所への訪問等	*訪問指導 ・0～1歳児対象 ・月1回 約2時間 *通所指導 ・2～6歳児対象 ・週1回 約3時間 *経過観察 ・他機関通所児(盲学校を除く) ・年数回家庭訪問 *野外指導 ・年2回程度

4. 両親への情報提供

(1) 目的 両親に対するバックアップ

①心の安定をはかるために

子どもの状況やそれに関する質問を聞き、答える。またその中で両親とのコミュニケーションを深める。

→ 養育相談・訪問指導・通所指導等

②広い視野をもつために

養育全般その他に関する情報をいろいろな角度から提供する。

→ 両親教室・通信の発行等

③高い意識をもつために

視覚障害児を育てていく中で知っているよりよいと思える情報を提供する。

→ 点字教室・絵本講習会等

④将来の見通しをたてるために

進路等に関する状況を提供する。→ 学校見学等

(2) 内容

①	a 養育相談	*毎月1回 15～45分程度 *個別面接形式 *面接者 木塚 泰弘氏 (国立特殊教育総合研究所 視覚障害教育研究部長)
	b 訪問指導	*毎月1回 2時間程度 *複数(職員+嘱託指導員による家庭訪問) *0～1歳児家庭対象
	c 通所指導	*毎週1回 3時間程度 *幼児指導の中での担当指導員との話し合い
②	d 両親教室	*年2回 2時間程度 *講演、レンズ等機器の展示など
	e 通信の発行	*毎月1回 *育児方法、母親の作文、行事予定・報告、 点字毎日の記事等の掲載
③	f 点字教室	*講習会形式…週1回 1時間程度(通所指導中) 通所指導児の両親対象 *通信形式 …不定期 訪問指導児等の親対象 *点字基礎の習得(絵本に点字が打てる程度を目標)
	g 絵本講習会	*年1～2回 *さわる絵本の簡単な作り方
④	h 学校見学	*年3～4回 2時間程度 *県内の盲学校・弱視学級等の見学

5. おわりに

以上ライトセンターでの両親への情報提供に関することを中心に報告した。盲学校が子どもへの直接指導を充実させていく中、こうした両親へのサービスは役割分担として必要と思われるので、今後も充実させていきたい。特に両親が安定した気持ちで育児に取り組み、それぞれの子どもにとって必要なことは何かを判断するための援助に力を入れたい。そのために、今後の課題として、適切な情報を集めるための検討をしていきたい。

また両親への情報提供だけでなく、養育相談や0～1歳児への訪問指導等特色のある指導を充実させていきながら、常に新しいニーズにも対処できるよう心がけたい。

<参考文献>

*木塚泰弘(1981): 盲乳幼児の家庭における指導
国立特殊教育総合研究所 障害児の家庭における指導の研究 特別研究報告書, 11-12

*森 秀子(1987): 障害乳幼児をもつ親への育児に関する情報
発達の違いと教育, 18-23

視覚障害乳幼児の視力の推定方法について

東京都心障害者福祉センター

香川すみ子 岡田節子 中嶋和夫

【はじめに】

本研究においては、全盲から強度弱視者を対象に、知的状態および視覚系の行動（「手がかり行動」）を利用し乳幼児の視力推定に関する簡便な方法を整理したので報告する。

【方法】

対象は眼疾および眼底状態が明らかで、6歳以降に自覚的な検査方法によって視力が得られたケース40名とした（表1）。

本研究においては、これら40名の知的状態および「手がかり行動」を参考に、どのような処理システムを構築するなら彼らの視力の程度が推定可能かということについて検討した。なお、ここで言う「手がかり行動」とは

- ① 太陽に対する反応の有無
- ② 電気に対する反応の有無
- ③ 白い物に対する反応の有無
- ④ 眼前の積み木に対する反応の有無
- ⑤ 床上の小粒に対する反応の有無
- ⑥ テレビに対する反応の有無
- ⑦ 絵カードに対する反応の有無
- ⑧ 眼前で手を振る行動の有無

を意味する。知的状態はセンター式発達評価表で評価した。

【結果】

得られた結果は図1に示した通りである。

【まとめ】

われわれが開発した視力推定方法は、簡便で信頼性の高い方法と言えるが、今後はさらに詳細な視力の程度を推定する方法を開発することが必要と言えよう。

表1 対象児の内訳

視力	フォロー月齢	眼疾
全盲	11～60 14～131 5～72 9～79 4～83 3～74 8～73 7～108	網脈絡膜の欠損、形成不全、萎縮 未熟児網膜症以外の白色瞳孔 未熟児網膜症以外の白色瞳孔 未熟児網膜症以外の白色瞳孔 小眼球 小眼球 視神経乳頭形成不全
光覚	2～48 10～60 12～58 3～78 11～82 15～49	未熟児網膜症以外の白色瞳孔 未熟児網膜症 未熟児網膜症 未熟児網膜症 未熟児網膜症
手動弁	7～68 5～109 5～114 4～67 10～67 4～58	未熟児網膜症 未熟児網膜症 未熟児網膜症 未熟児網膜症 未熟児網膜症 未熟児網膜症以外の白色瞳孔
眼前指数 0.01	5～82 12～83 18～110 30～60	未熟児網膜症 角膜混濁 強度近視 未熟児網膜症
0.03	8～79 2～58	角膜白斑 角膜白斑
0.04	23～78 10～77	角膜混濁 未熟児網膜症
0.06	5～57 10～50	小眼球 小眼球
0.06	10～72 10～80	小眼球 無水晶体
0.08	1～81 4～74 10～60 12～48	小眼球 小眼球 未熟児網膜症 網脈絡膜の欠損、形成不全、萎縮
0.09	18～80	先天性緑内障
0.2	14～66 15～82	強度近視 未熟児網膜症
0.3	20～80	無水晶体

弱視幼児に対する形体認知指導について

—— 動作と表情の認知絵カードの作成 ——

福岡市立心身障害福祉センター

米田 博

諸藤圭子

はじめに

当センターでは、単一の具体物を描いた絵カードによって、弱視幼児の視経験を促進させる指導を行った。この結果、絵本に描かれている個々の形体の認知が、よりスムーズになったと思われる。しかし、絵全体の状況を意味的に理解するには、複数から成る構成物の関連を、適切に視覚認知する必要がある。われわれはこのために、人物の動作と表情の認知を重視し、その促進を目的とした絵カードを試作したので紹介する。

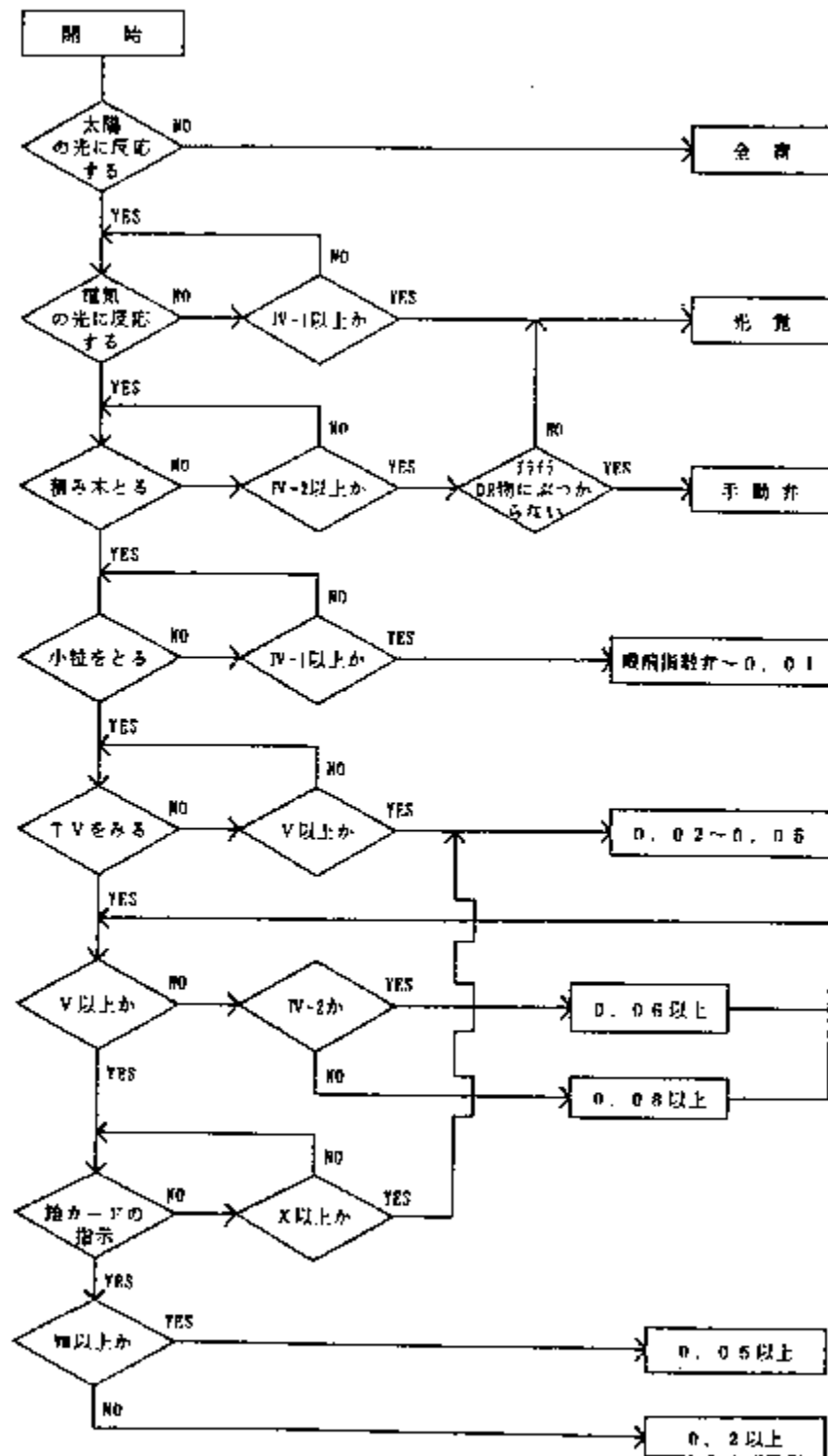
1. 弱視児の形体認知上の問題

当センターですすめた絵カード。(原則として1枚に1個の具体物を描いたもの)指導によって238種の形体が認知可能となったJ.W児(6歳、未熟児網膜症、視力0.01)に、5冊程度の絵本(ストーリーに難易差があるが視覚認知しやすいと思われるもの)を与え、読み聞かせを加えながら反応を観察した。次のような点がみられた。

- (1) 人物の表情が認知しにくい
- (2) 人物が何を持っているのか、手をどうしている姿勢が認知しにくい。
- (3) 人物の表情が何に起因するのかといった状況理解ができないか不十分。
- (4) 言語的な要素には非常に強い関心を示した。
- (5) 全体的に、興味が持続しない。

以上により、人物の表情および動作を表す形体の認知でつまづいており、系統だてて認知を促進すれば、絵本の絵の把握はよりスムーズになると考えた。

※五十嵐信敬「弱視用形体概念学習カード」



2. 絵カードの作成

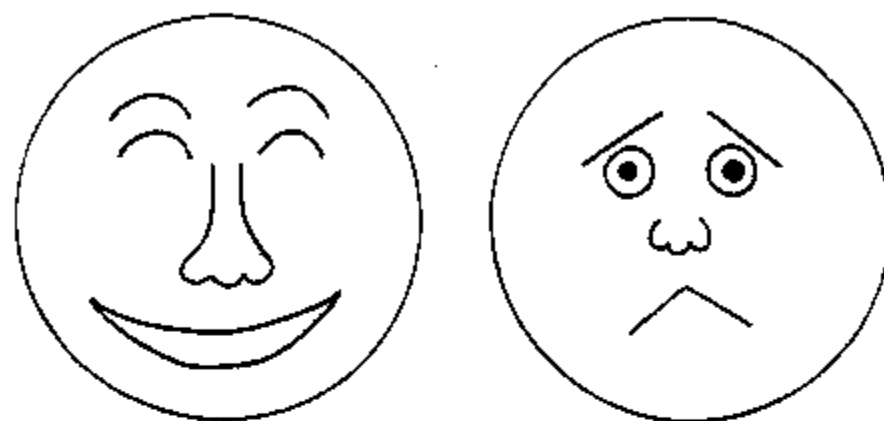
表情認知カードと動作認知カードの2セットで構成した。

カードの大きさは20cm×14cmとし、カーボン紙を使って題画をトレースしたが部分的に色鉛筆で彩色した。表情認知カードは表のように構成した。各形体ともカードにちょうど収まる大きさのもの(大型)と直径3cmの円に収まるもの(小型)の2種を用意した。

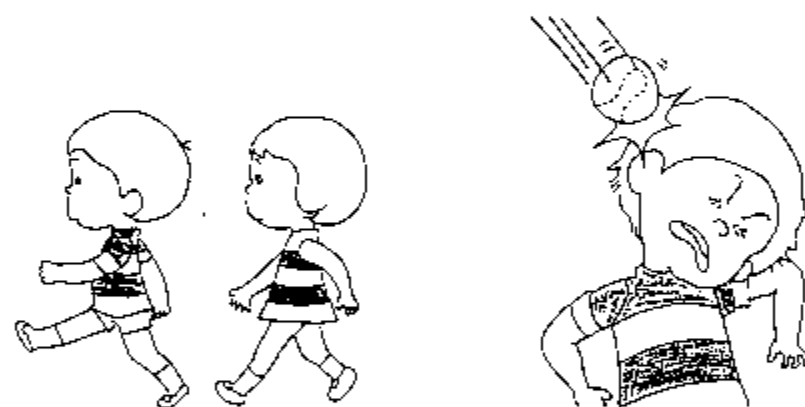
動作認知カードは、刊行されている絵本に登場する人物の動作を抽出したものに適宜追加して約130枚を作成した。

無 表 情	1	基本の表情	5	怒る
	2	目を上に向ける	6	眉をしかめて困っている
	3	目を横に向ける	7	我慢する(歯をくいしばる・目と口を閉じて耐える)
	1	口を開けて笑う	8	口を開けておどろく
	2	口を閉じて微笑む		
	3	口を開けて泣く		
	4	口を閉じて泣く		

表情認知カード…笑った顔・困った顔



動作認知カード…歩く・ボールが当たる



参考文献

米田博・秋山努・竹浦佐英美(1989)「絵カードによる弱視幼児の形体認知指導について」弱視教育27-2

○絵カードの原画

大久保愛(1977)「幼児のこくご絵じてん」三省堂

柳原良平(1988)「かおかおどんなかお」こぐま社

〒603 京都市北区紫野花ノ坊町11

京都ライトハウス 新館内

視覚障害乳幼児研究会事務局

☎ (075) 462-4579